

No  
157

令和元年8月

さめがわ村

# みんなの ギガい だより

題字：鮫川小学校

4年 阿久津 悠介さん

6  
月  
定  
例  
会

旧つるや旅館  
特集ページ..... 2~3

一般質問に8議員登壇 6~14

村民の広場 ..... 15

ふるさと鮫川への想い .... 16

# 議論 活発な整備に

昭和初期の上野駅に掲げられた看板

## 「湯乃田温泉」の名湯を守りたい

### 4議員が質疑

#### 遠藤 貴人 議員

**質疑** 宿泊施設が必要であるとは考える。しかし、用地問題をはじめとする諸問題に関して、万策が尽きたのか。

**答弁** さぎり荘は村で建設した施設ではない。白河広域圏で昭和47年に建設、昭和48年に村に移管された。現在、借地料を支払っている。借地に建物の建設はしない。

**質疑** 施設を買い取ることが、鮫川で20年30年暮らしていくうえで重荷にならないか。

**答弁** 湯の田温泉は鮫川村のシンボル。観光のシンボルを、他に渡したくない。

**質疑** 買い求めた場合、施設の経営は誰がしていくのか。

**答弁** 厳しい営業になることは承知している。村に営業の知識はない。村づくり会社を設立し、営業能力に長けた人材を雇い入れる計画をする。

**質疑** ここで一旦、立ち止まり、新たに考えることも出来るのでは。

**答弁** 上手に利用し、負担の少ない施設にしたい。営業は容易でないが、村を挙げて何とかしたい。

#### 関根 政雄 議員

**質疑** 法定代理人を立て、相手は高く売りたい。こちらは安く買いたい。村長の交渉の心構えは。

**答弁** 必要以上の費用は使わないでいきたいが、場合によっては相談させていただく。

**質疑** 最低限度の改修にとどめて、自主財源を出さない努力をする考えはあるか。

**答弁** 改修は身の丈にあった程度でいいが、利用者に清潔感を与えるぐらいにはしたい。

#### 前田 武久 議員

**質疑** 通常、設計費は工事費の1割程度であるので、総工費は1億円となり、運営までの諸経費を含めると2億近くになるのでは。

**答弁** 改修費用など全てで1億円以内にしなければ、村の負担になる思い。

**質疑** さぎり荘の敷地内に建設するべき。

**答弁** さぎり荘の敷地内は崖地条例によって、建物が建設できない。そのうえ、敷地内に村の所有地は一切ない。

# 特集 宿泊施設



## 2議員が討論

### 反対者の発言

前田 武久議員

具体的な説明、資料開示、施設の現状確認の報告等が全く無い。このような状況で、貴重な村費を費やすことは村民に理解されない。買収ありきで議決権を行使するには、時期尚早である。

### 賛成者の発言

宗田 雅之議員

さざり荘周辺の景観整備、湯の田温泉の宿泊施設設置は、村の振興に大きく役立つ。改修費用を抑えるため、行政、議会、住民が意見を出し合い、来訪者に利用しやすい宿泊施設を少しでも早く提供すべき。

## 一目でわかる審議結果

【6月定例議会】

○=賛成 △=反対

議案	森 隆之	遠藤 貴人	堀川 照夫	北條 利雄	関根 英也	前田 雅秀	関根 政雄	前田 武久	宗田 雅之
一般会計補正予算	△	○	○	○	○	○	○	△	○
特別会計	国民健康保険(事業勘定)補正予算	○	○	○	○	○	○	○	○
	国民健康保険(直診勘定)補正予算	○	○	○	○	○	○	○	○
	簡易水道事業補正予算	○	○	○	○	○	○	○	○
	介護保険補正予算	○	○	○	○	○	○	○	○

# 条例の一部を改正 少で負担増に

6月  
定例会



大樂勝弘 村長

## 安定的な国民皆保険制度を進める

### 6月定例会の あらまし

6月定例会が6月11日から13日までの3日間の会期で開催されました。

第1日目に、一般質問を行い8名の議員が登壇し、無料公衆無線LAN(Wi-Fi)の公共施設への整備、定住人口確保の住宅政策の推進や宿泊施設の在り方と今後の検討についての質問などを取り上げ村政を質しました。

また、報告2件の後、条例の一部改正等8件及び令和元年度補正予算5件の提案説明がありました。

第2日目に、総務文教常任委員会と産業厚生常任委員会の合同議案調査を開き、議案を審議しました。

最終日に、審議した条例、補正予算、議員発議1件を原案どおり可決し、請願1件を採択しました。また、追加提案された人事1件を選任同意、審議した意見書1件を可決し、閉会中の継続審査を許可して閉会しました。

### 質疑

北條利雄 議員

**質疑** 県が運営する、国民健康保険税の按分率を決定するうえで、村が多大な苦勞をしているのは理解するが、被保険者の負担増はかなり重い。

**答弁** 鮫川村だけでなく全国的に見られる原因として、被保険者の減少が負担増につながっている。繰越金は全て積立しているが、病気が蔓延した場合の準備基金は必要。

**質疑** 被保険者である低所得者、高齢者は相当に苦しんでいる。基金を確保することも理解するが、国・県に対して自治体の税率を下げる要請が必要では。

**答弁** 健康づくりを推し進め、医療費が削減された自治体には交付金がある。こういった背景も含め、医療費の軽減策を図る。併せて、安定的な国民皆保険制度を国・県に強く訴える。

# 国民健康保険税

# 被保険者の減

## 令和元年度 補正予算



### 6月定例補正予算の状況

会計別		補正額	補正後の予算額
一般会計		8537万3千円増	29億6537万3千円
特別会計	国保事業勘定	155万1千円増	4億3400万5千円
	国保直診勘定	974万1千円増	7394万9千円
	簡易水道事業	0	1億2712万5千円
	介護保険	0	4億9182万2千円
合計		9666万5千円増	40億9227万4千円

### 6月定例補正予算の主な事業

歳出		歳入	
プレミアム付商品券事業給付費	2000万円追加	プレミアム付商品券事業費等補助金	664万円追加
子ども・子育て支援システム改修業務	605万円追加	緊急風しん抗体検査等事業費補助金	128万6千円追加
緊急風しん抗体検査等業務委託	148万4千円追加	子ども・子育て支援事業費補助金	605万円追加
手まめ館商品販売促進用パッケージ印刷費	135万円追加	プレミアム付商品券売捌料	1千600万円追加
宿泊施設改修工事設計業務委託	1109万3千円追加		
宿泊施設用土地及び家屋購入費	3600万円追加		

#### 報告がありました

繰越明許費繰越計算書について  
一般会計のプレミアム付商品券事業やふくしま森林再生事業ほか3事業。

#### 白河地方土地開発公社の経営状況について

村が出資している白河地方土地開発公社の平成30年事業年度の経営状況について、議会に説明資料が提出されました。

#### 条例の一部を改正しました

※消費税率の引き上げに合わせ、条例の一部を改正する条例(4議案)

- ◎ 鮫川村民保養施設条例の一部を改正する条例
- ◎ 鮫川村簡易水道条例の一部を改正する条例
- ◎ 鮫川村介護保険条例の一部を改正する条例
- ◎ 鮫川村集落排水処理施設条例の一部を改正する条例

#### 人事案件がありました

鮫川村監査委員の選任同意  
森 洋(赤坂東野字楮久保)

#### 議員発議し、可決しました

- ◆ 新たな過疎対策法の制定に関する意見書の提出について
- ◆ 提出者 前田 武久
- ◆ 賛成者 森 隆之 外2名
- ◆ 本会議 全員賛成で可決

# 定数10に10人が立候補

議会議員の「なり手不足」が叫ばれる。「投票の機会を失い残念」との声がある一方、欠員を出すことは避けられた。再び4年後に審判の時を迎える。

村政に関心を持っていただき、施策につなげることで次代を拓くことが望ましい。議会自らが「なり手不足」の課題に取り組まなければならない。



星 一彌

- 4期目 77歳
- 議長
- 総務・文教常任委員



宗田 雅之

- 4期目 67歳
- 副議長
- 産業・厚生委員
- 議会運営委員



前田 武久

- 8期目 77歳
- 総務・文教常任委員長
- 議会運営委員



関根 政雄

- 5期目 63歳
  - 総務・文教常任委員
- ※ 7月11日 議員辞職



前田 雅秀

- 4期目 70歳
- 総務・文教常任委員
- 監査委員



関根 英也

- 2期目 69歳
- 産業・厚生常任委員



北條 利雄

- 2期目 66歳
- 産業・厚生常任委員長
- 議会運営委員長



堀川 照夫

- 2期目 65歳
- 産業・厚生常任副委員長
- 議会運営委員



遠藤 貴人

- 2期目 38歳
- 産業・厚生常任委員
- 東白衛生組合議会議員



森 隆之

- 1期目 42歳
- 総務・文教常任副委員長
- 議会運営副委員長



宗田 雅之 議員

## 問 旧つるや旅館の購入後の施策を問う

## 答 公社運営も視野に検討する

### 質問

人口減少が進む中、現在、交渉中の旧つるや旅館の購入後の生かし方、施策によっては、雇用の確保、定住人口の維持、拡大に繋がるのではと考えるが。

### 答弁(村長)

購入に合わせ運営方法の検討、施設改修、開業に向けた調査、準備を進めている所である。既存の村施設を含め、公社での運営も視野に入れながら検討していく。

### 再質問

サービス業である以上、改築計画と合わせて、人の選定、事前教育が必要と考えるが。

### 答弁(村長)

運営形態が決まれば考えなければならぬと思う。まずは早めの事業形態を確定させたい。

### 再質問

周辺の景観整備も、何回か以前に質しているが、進行状況は。

### 答弁(村長)

現在、さざり荘周辺の杉材の全伐が終わり、伐採の際の搬出土を遊歩道に利用し、周辺に花木を植栽する計画になっている。

### 問 子供の意識高揚と教育について

一人一人の子供の非認知的側面の意欲や社会力を身につけるよう努力する。

### 質問

子供たちの理想や夢を叶えさせるために、何故やるのかと言う動機づけが力となり、努力させ、進歩させ、念があつて、初めて子供たちが動くものと考え、この動機づけ教育の現状は。

### 再質問

現在、環境的に恵まれない子供たちへの教育の助成、将来への夢づくりの助成への現状は。

### 答弁(教育長)

教育はその能力に応じて、例え貧しくても等しく教育を受ける権利を有すると教育基本法の中に唱われている、今、国全体としてそういう子供たちの支援をおこなっていることだと思ふ。本当に大事なことだと思ふと同時に、等しくについても様々な条件が伴うので、少なくとも二つ以上の物差しで子供たちを温かく育てていかなければならないと考える。併せて社会全体でカバーし合うような地域にしていきたい。

### 答弁(教育長)

教育を一つの観点で見分けると、様々な事を知ると言う認知的な側面とおもしろみや夢に向かい努力するなどの非認知的側面があり、一人一人の子供が非認知的側面の意欲や、社会力を身につけられるよう努力している。また子供一人一人の意欲を大事に、親子、先生と子供、子供同士のコミュニケーションが行われるような指導力の向上に努めている。



施設利用が検討される旧つるや旅館

次のページは

一般質問

前田武久議員・関根政雄議員



前田 武久 議員

## 問 政治信条を成し得たか

## 答 課題も残った



新たに引湯した源泉の泉質が好評なさざり荘

### 質問

4期16年の実績と、成し得なかった課題は。

### 答弁(村長)

農業振興、手まめ館、土づくりセンター、廃

校利用、特老誘致、子どもセンター、村営住宅、財政再建、医療費削減、分譲地造成など。課題は中心地活性化事業で、旧つるや旅館の活用など。

### 再質問

村民の意見を聞き入れ、開かれた行政を掲げているが、断念した事業は村長が独断先行で発した道の駅、手まめ館の移転、文化センターに代わる学習館建設構想。

自ら任命した諮問委員会での協議では、付託要件に反対され答申内容には一切触れられなかった。村民の求める雇用対策、所得の安定策、森林資源の活用、温泉周辺開発による雇用促進など、調査検討を要請しているが、無策となっている。

### 答弁(村長)

税収を上げるため雇用の場の確保が大事。誘致活動はしたが、応募企業全て、世の中が嫌う会社であった。鮫川は道路を整備し1時間間の通勤距離で、住宅地として住んでもらえよとの思い。森林資源の活用、温泉資源の活用は容易でない。湯の田周辺の環境整備は皆さんと考えたい。

### 再質問

さざり荘での多目的広場の建設計画を、地権者の内諾も得て、何度も提言している。

交通量、人口比率、将来性からみて国土交通省が認可する道の駅は出来ない。維持費は村民負担となり、後世の負の遺産となる。

### 答弁(村長)

軽はずみに、手まめ館移転の話をしたためと思う。施設は大きな財政負担になることを承知しているが、皆さんの元気を応援したい。

### 問 進退の決意は

### 答 悩んでいる

### 質問

進退を6月定例会までには明らかにすることだが、進退の決意は。

### 答弁(村長)

後援会から5期目を目指すべきと支持され、悩んでいる。優柔不断で申し訳ない。

### 再質問

いつ決断するのか。

### 答弁(村長)

名乗りをあげた新人が、私の意に沿わない時は8月になってからも考えている。





関根 政雄 議員

## 問 障がい者福祉充実の支援策を示せ

## 答 障がい者でも老後が安定して生活できるよう支援する

### 質問

障がい者福祉充実の観点から次の各点について伺う。

- ① 鮫川福祉会（たんぼの家）に譲渡した中沢入り口の旧保養施設活用のグループホームの経過と今後の支援策は。
- ② 視覚障害者、聴覚障害者への情報提供への支援策は。
- ③ 村内公的施設のバリアフリー化の現状は。
- ④ 心のバリアフリーの啓蒙活動と福祉教育の推進策は。

### 答弁(村長)

①平成30年2月に鮫



福祉施設として改修が予定されている旧保養施設

川福祉会（たんぼの家）から旧保養所の土地、建物の譲渡と建物の改修費用の助成の要望があり、不動産贈与契約を締結した。同年7月に県に助成金の申請をし、ヒアリングが行われたが、その後国からの返答がないとのこと。事業採択後に実設計するとしているが、まだ先になる見込みである。

### 再質問

### 答弁(村長)

国・県の採択が決まった時点で相談にくるらしい。

### 再質問

聴覚障害者への「手話」の普及、視覚障害者への「声の広報」の推進策は。

### 答弁(村長)

福祉サービスは当たり前の行政の仕事。国県同様に施策を講じる。

### 問

定住人口確保の住宅政策の推進策は

### 答

子育て世代を対象とする住宅支援も支援する

### 質問

公営住宅は空き家が見受けられるが、入居状況と今後の見込みは。さらに宅地分譲地の販売状況と広報。若者の村内への新築住宅への支援策を伺う。

### 答弁(村長)

定住促進住宅は5戸、居住促進住宅（越虫）は空いているが売却の予定。村営住宅は61戸のうち10戸が空家である。

宅地分譲地の販売状況は11区画の内3名の方と売買契約を締結した。子育て世帯の住宅建設の支援策として、村の分譲地を購入した場合を対象としたが、今後全ての子育て世代を対象とする住宅支援ができないものかと考えている。

### 再質問

村営住宅は収入が高くなると家賃が高騰するが、子育て支援として、家賃の補填策は考えているか。

### 答弁(村長)

この場で即答できないが、よその町ではどのように支援しているのか合わせて考えて検討する。

### 問

「感謝の村づくり運動」の推進策は

### 答

必要性を含め今後検討する

### 質問

村には表彰規程が定められている。これらの規程を軸として「ありがとう感謝の村づくり」を推進してはどうか。

### 答弁(村長)

人は他人から認められれば喜びを感じ、表彰や感謝状が郷土愛の醸成や地域振興に効果がある。提案を検討する。

次のページは

一般質問

関根英也議員・北條利雄議員



## 問 人口減少対策を示せ

## 答 村づくり会社を設立し 定住人口を確保する



空き家になった古民家

### 質問

鮫川村の人口は2019年4月1日現在で、3144人となっている。鮫川村人口ビジョンには、総合戦略を展開することにより、2020年に3590人、2040年に30

90人を維持するところが、計画とは逆の方向に推移しており、相当な危機感を持って対処することが求められるが。

### 答弁(村長)

人口ビジョン総合戦略を策定したときに、推計した人口の減少率を上回るスピードで人口減少が進んでいることには、大変憂慮している。本村の急激な人口減少は事実である。一定規模の人口を確保することは、自治体に求められる大切なこと。一方、少ない人口ならば、少ないなりに知恵を絞り、しっかりと行政を行っていけば良いという考えもある。

子育て支援については、他町村より手厚い政策を行った。過疎対策事業にも取り組んだが、人口減少に歯止めをかけることが出来なかつた。小さな自治体から出来ることは限界があり、出来ることを一つづつやっていく。

### 再質問

企業誘致が厳しい現状の中、高校・大学を卒業した若者やアイターン、ユーターン希望者が安心して勤められる、公設公営、公設

民営の産業を振興し、雇用を促進させ、人口減少に歯止めをかけるべきと考えるが。

### 答弁(村長)

今年度、地方創生推進交付金事業の中で、村づくり会社の設立について、準備を進めていく。農業部門では、大豆の栽培や農産物の生産を行い、6次化を推進する役割を担う。耕作放棄地防止対策として、農地を借り受け農業振興に寄与する。加工販売、観光誘客、環境保全部門を設け、会社設立により、雇用の創出、定住人口の確保を図り、地域の賑わいづくりを担う組織として確立する。

### 再質問

新聞社のアンケート、令和時代の最重要課題と対応の問いに、急激な人口減少対策として、地方ならではの魅力づくりと、中山間地域での農業の振興に努力をしなければならぬと回答しているが、稲作、

### 答弁(村長)

東北地方の中山間地域を調査してきた、民族研究家の結城登美雄氏は地域づくりにとつて、大切なテーマを上げている。鮫川村が取り組んできた村づくりが、そのままではまる。自然環境を活かして、農業や畜産を守り、都市との交流など新たな発展をさせていく。



北條 利雄 議員

問

# 無料公衆無線LAN(Wi-Fi)の 公共施設への整備を伺う

答

## 設置箇所や財源など 具体的に検討を進める

質問

携帯電話のインフラ網が整備され、スマートフォンやタブレット端末が活用されている現代、災害発生時の通信手段の確保が課題である。データ通信の容量、通信使用制限を気にせず利用できる無料公衆無線LAN(Wi-Fi)を公共施設に整備し、利便性を図っていく必要がある。公共施設のWi-Fi環境導入のメリットは災害時だけでなく、平常時は観光や教育の活性化につながる。

答弁(村長)

Wi-Fiの整備は一力所もない。観光教育、防災などさまざまな面で有効なツールであることは論をまたない。財政的に厳しいことが、整備に進まなかった一つでもある。情報化の推進のために、光ファイバー網の整備や携帯電話のエリア整備などに積極的に取り組んできた。Wi-Fiの整備の必要性や有効性については認識しており、今後、公共施設への整備に向けて、設置箇所や財源など具体的に検討を進めていく。



待たれる公共施設への無料公衆無線LAN

問  
ペーパーレス会議の導入に向けた考えを伺う

答  
パソコンの次の更新時期に検討する

質問

ICT化(情報・通信)に関する技術)の流れの次の段階として、環境保護(省資源・省エネルギー)や業務の効率化、機密情報の漏えい防止といった理由から、ペーパーレス会議(使用する資料を印刷物ではなく、パソコンやタブレット端末で代替して行う会議)を導入する事例が増えている。行政改革の推進という面からも、このような現状を改善することが必要である。ペーパーレス会議の導入に向けた考えを伺う。

答弁(村長)

情報化の先駆けとしての導入は十分価値はあるが、それにかかるコストが利点に見合うものか、村民や実際に

利用する職員の理解が得られるかなど課題が多く、現状は検討する段階に至っていない。将来的には、ペーパーレス化も検討しなければならぬが、その時期ではない。

タブレットの導入等によるペーパーレス化については、現在利用しているパソコンの次の更新時期に検討する。

問  
議員報酬と特別職給与の考えを伺う

答  
時期を見て、検討する

質問

議員のなり手不足の問題は、議員報酬が問題の全てではないが、大きな問題の一つであることは事実である。

住民の声に耳を傾けて、地域の課題を的確に捉え、その解決策を議会に提示する役割を果たせる人材や次世代の確保が議会に求められている。

答弁(村長)

次世代の発想、感覚が村政に反映されるようにするためにも改善が必要である。議員報酬と自らの特別職給与の考えを伺う。

議員報酬の安さが原因で優秀な人材の確保が阻害されるのは、村民が望むところではないと思う。安易に引き上げ、そして見直しができる状況ではないと思うが、時代の変化に伴い、定期的な見直しをする必要があり、村民のご意見を伺いながら、慎重に判断したい。時期を見て、委員会などの設置も検討しなければならぬと思う。

次のページは

一般質問

堀川照夫議員・遠藤貴人議員



# 問 繁殖農家ヘルパー制度導入の考えは

# 答 必要な支援策を検討する



支援策が待たれる繁殖農家

### 質問

本村の畜産業は、和牛の繁殖農家が重要な基幹産業として村の経済を大きく支えている。これからの繁殖農家は経営者の高齢化や担

手不足も懸念される。ヘルパー制度を繁殖農家に導入し村独自の支援策を講じるべきと考えるが。

### 答弁(村長)

本村の畜産業は平成30年度には94戸の飼養の農家で年間706頭、税抜価格で約5億円の子牛の販売額となる。さらに村独自の支援策を行うためには、畜産農家としてどのようなことが必要なのか、畜産団体とも協議して検討したい。畜産団体との協議の場に堀川議員と役場職員も参加していただき、鮫川村にとって大事な繁殖畜産を応援していきたい。

### 再質問

村独自のヘルパーというのは冠婚葬祭や旅行などで留守にする時、畜産農家に行つて餌のやり方をメモして、1日2回を目安にやっていただければ。

### 答弁(村長)

担い手はヘルパーであり、役場職員では無理。畜産農家のグループで組織を作つて役場が窓口になり、労働力、労賃を村で支援したい。畜産農家同士で話し合



い、こういった形で村が手伝えるか相談したい。

### 再質問

役場で繁殖から肥育をして、うまいもの祭りで提供できるような、一貫経営の考えは。

### 答弁(村長)

子牛2頭を買つて、畜産農家に頼んだこと

もあるが、とても難しい。一度経験して断念した。輸入牛を使わず、福島産牛で開催しているのが実情。



遠藤 貴人 議員

## 問 村のお金が村民以外に 支払われることへの考えを伺う

## 答 鮫川高の定数割れに対し 臨時的な措置



就学に対する助成の側面を持つ通学支援金制度

質問

平成28年度から支給されている高校通学支援金だが、村外から鮫川高に通学している生徒にも90000円が支払われている。入学者

が減少し続ける鮫川高を存続させるための施策ということとは理解しているが、村のお金が他町から通学する者に支払われることについての考えを伺う。

答弁(教育長)

平成27年6月に白河市内高校通学バス運行意見交換会を開催。通学バスの運行よりもバス定期券代や燃料代の助成を望む声が多く、これを受けて、補助金の交付の対象を高校等に通う全ての生徒の保護者とし、通学の手段にかかわらず一律に交付するという条例を制定。

通学経費への助成と捉えがちだが、就学に対する助成としての側面をあわせ持つ制度として整備した。

再質問

村のお金が村民に使われないことに対しての考えは。

答弁(教育長)

本来だと、こういった使われ方はない。しかし、鮫川高の定数割れに対し臨時的な措置。これが正しい使われ方でないということは理解している。

再質問

白河市内に通う高校生に対してバスを出すという議論から、全員補助対象になった理由は。

答弁(教育長)

保護者から様々な意見が出て、最終的に先ほど申し上げたとおりになった。

問 まだ生まれぬ命への支援は

答 自己負担額の一部を村が支援する

質問

晩婚、食生活、女性の社会進出など、様々な理由で妊娠・出産は以前に比べてより困難になっている。高度不妊治療期間が長きに及ぶこともあり、精神的・資金的な理由から途中で断念してしまうことも多い。村には手厚い子育て支援が存在しているが、まだ生まれぬ命に対する支援も必要では。

答弁(村長)

40歳未満には通算6回。40歳以上には通算3回の上限が設けられ、1回当たり15万円を助成している。本村における不妊治療支援は、助成対象や対象医療機関などを県の助成とほぼ同一とする。福島県へ申請した助成額を超える自己負担額の一部を村が支援。助成額は1回当たり15万円。通算回数や上乘せ助成等も県と同様としている。

福島県の現行制度は、体外受精、顕微授精や男性不妊治療など、保険適用されない特定不妊治療が対象。

県内在住で年間所得730万未満の夫婦に、

◀次のページは

一般質問

森

隆之議員・村民の広場



## 問 第4次鮫川村振興計画を伺う

## 答 検討委員会を立ち上げ 計画の見直しを行う



村中心地の風景

### 質問

第4次鮫川村振興計画の進捗状況について、鮫川村振興計画も前半の5年が経過しようとしている。そこで、前期基本計画にある29項目の成果指標（ベンチマーク）が現在達成されている項目数と、未達成の項目数、また全体目標の何パーセント達成されているのか、進捗状況を伺う。また、

未達成の項目は今後達成可能なものなのか、あるいは、修正見直しを行わなければならないものなのか。

### 答弁(村長)

第4次の鮫川村振興計画は、本村の特性や課題を総合的に勘案し、目指す将来像とその実現に向けた分野ごとの目標や施策の方針等を示したものである。基本構想

の期間を平成27年度からの10年間、また平成27年度から平成31年度、令和元年までの5年間が前期基本計画となっている。それぞれ

成果指標が設定されており、その数は全部で100項目、成果指標の達成状況、進捗状況は、昨年までの実績で100項目のうち25の項目で目標を達成し、55の項目が未達成。残りの20項目については、成果指標が施策に対する村民の満足度など、現時点ではアンケート調査などを実施していないため、達成状況が不明。

もある。

今後の見直しについては、社会情勢の変化に伴い、新たに必要な施策も出てくるが、計画そのものについては見直しもなければならぬと考えている。

### 再質問

今後、修正するものと取りやめるものを再度検証し、社会情勢を踏まえた検討委員会などの立ち上げがあるのか。

### 答弁(村長)

現在、国では第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略が今年度で終わるのを受けて、来年度から始まる第2期の総合戦略の作成に向けて、まち・ひと・しごと等創生基本方針2019の策定を進めているところである。それを受けて国の総合戦略が策定され、市町村も第2期総合戦略を策定するという流れになってくる。振興計画の見直しについては、第2期総合戦略の策定を見据えながらの作業

になつていくものと考えている。

### 再質問

現在鮫川村の人口は、3100人を下回っている状況。そう思うと、思ったほど現代社会の流れが速い、当初計画した目標よりもっと前倒しでやらないと、鮫川村は時代の流れに取り残されてしまう。この目標は5年前につくられたもので、実際の社会情勢を勘案すると、なかなか全てが実現するようなものではない。できるものではない。できるものをこの際につきりさせたほうがいいのではないかと。優先すべきもの、そうでないものを、委員会の立ち上げを検討しては。

### 答弁(村長)

検討委員会などの立ち上げについては、その時期は未定だが、立ち上げて皆さんで検討しなければならぬと考えている。

# 村民の広場

～スポーツクラブの紹介～

## 鮫川村スポーツ少年団 ミニバスケットボール部



ミニバスケットボール部は今年で創設5年目になるスポーツ少年団です。昔は鮫川小学校や西山小学校などにはミニバスがありましたが時代の流れに伴い、児童数や指導者不足などにより自然に消滅してしまいました。しかし、子供たちの強い希望と村民の皆様との協力により復活することが出来ました。

現在3年生から6年生までの女子児童15名が所属しており、県南地方でも鮫川ミニバスは注目される存在になってきております。よく他のチームから言われるのは「鮫川さんはよく走るしスタミナがありますね」と言われます。指導者は現在3名在籍しており、専門のコーチライセンスや資格を持っていて、科学的な根拠に基づき指導をしております。

運動学的には人間の運動神経は小学校5、6年生の時のトレーニングで決まるといわれております。そのためバスケット部はコーディネーショントレーニング(運動神経を鍛えるトレーニング)を取り入れ、バスケット以外のスポーツにも対応できる指導をしております。

ます。特に持久走などは速い子が多く、福島駅伝の下支えを担っております。また、他のチームとの交流があり埼玉県の新郷への合宿などは子供たちの恒例行事となっています。その他、クリスマス会など楽しいイベントが多々あります。興味がある方、足が速くなりたい方はぜひ遊びに来てください。お待ちしております。



- ◆ 練習日  
火・水・金曜日  
午後6時～8時
- ◆ 場所  
鮫川小学校体育館

## 議会傍聴者からの一言

— 6月定例議会傍聴者アンケートより —

◆ 議員の発言内容は良くわかりましたか

・ 議員それぞれの特徴があり、議員の姿勢(思い)が強く感じられた。

◆ 答弁者(村長・教育長)の発言はわかりましたか

・ 村長の答弁は、住民の声と首長としての村政を進める政治責任から、大変重いとということが分かった。

◆ 傍聴されて気づいた点がありますか

・ 議員各位の持ち味が素晴らしいと思います。できれば、提言する側とされる側の「しきい」がもう少し低ければ傍聴しても楽しめるのではないかと。

◆ 議会全般に対してご意見ありますか

・ 村政への提言が良くなされ、執行部との駆け引きが適正になされている「いい議会」だと感じた。

ゆうきくん  
からの  
お願い

議会傍聴に  
来てくんちナイ!

9月定例議会は  
9月中旬の予定です。



# ふるさと鮫川への想い シリーズ③



たての 鮫野 聡子 さん(旧姓:鈴木)  
横浜市在住(大字赤坂中野字伏木田出身)

## ◆プロフィール

【生年月日】昭和45年生まれ

【学 歴】・鮫川中学校  
・福島県立安積女子高等学校  
・同志社大学法学部 法律学科 卒  
・筑波大学大学院人間総合科学研究科  
博士前期課程 在学中

【資 格】特定社会保険労務士

【家 族】夫、娘

【趣 味】ロックフェス参加

## 本来の自分に戻る場所

私は鮫川中学校を卒業しすぐに、郡山の高校に進学したため、村を離れてかれこれ34年が経過したことになります。これまで本当にあつという間だったと感じています。

大学を卒業してから民間企業に就職をしたものの、誰もが働きやすい職場環境づくりをしたという希望が強く、社会保険労務士の仕事に転職をしまし

た。その後いくつかの事務所を経て今は独立し、労務管理コンサルティングを中心に仕事をしています。

それと同時に、今年の春から夜間の社会人大学院に通い、心理学を学んでいます。様々な分野のスペシャリストが集まる大学院での学びは大変に刺激的ではあります。仕事をしながら平日夜21時までの授業、土曜日丸1日授業、そしてこなしきれないほどの課題と深夜までパソコンに向かうこともしばしばです。

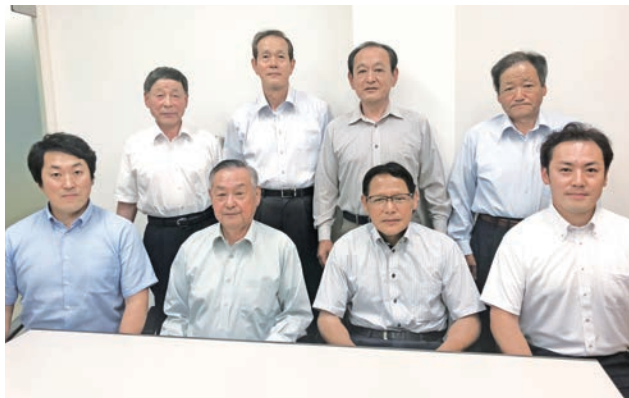
仕事と学業で疲れると、必ず思い出すのは鮫川のことです。都内でスーツを着て、パソコンやら参考文献やら書類やらでパンパンなバッグを肩にかけ、あちこちクライアント先を回る日々が続くと、どうしても疲れとストレスが溜まってきます。そんなときに、鮫川のきれいな空気を胸に一杯吸い込んで深呼吸したい、山の緑や田んぼを渡る風を感じたい、降るような星空を眺めたい、そして両親や親せき、自分のことを受け入れてくれる人に会って話

がしたい、と思います。鮫川は誰にも何も気兼ねをせずに自分が自分らしくいられるふるさとなんだと感じます。今はなかなかゆっくりと帰省する時間はとれないのですが、自分の心の中に鮫川があり、いつでも帰れば温かく迎えてもらえると思うから頑張れるのだと思っています。

もう20年近く前、社労士の資格取得の勉強のために、1ヶ月半、当時2歳の子どもを連れて鮫川に帰って、村の図書館で毎日受験勉強をしていたことがありました。毎日毎日図書館で勉強している私を図書館にお勤めの方が応援してくださったこと、今もよく覚えています。あの時は本当にありがとうございました。その時のあなたがたい応援があったので、無事資格を取得でき、そこをスタートに仕事を重ねていくことができました。子どものころから、そして今もあなたがたく私を見守って、育ててくれた鮫川にいつか恩返しをしたい、そんなふうに思っています。そして鮫川村がいつまでも皆のこころやすらぐ素晴らしいふるさとであり続けてほしいと願っています。

## 私達が編集発行します

4月の議会議員選挙で議員が新体制になりました。「子ども達と村民の参加」をテーマに、これからも皆さまに「読んでいただける広報誌」を目指します。



## 編集後記

4月の村議会議員選挙により新体制となつて、初の6月定例議会が行われました。議員の皆さんの活発な意見や質問が飛び交い、村を発展させたい気持ちはみな同じ思いだと感じました。

(広報編集委員)